

# 胃全摘術後における栄養サポートチーム(NST)介入の意義 に関する研究のお知らせ

帝京大学医学部附属病院では以下の研究を行います。

本研究は、倫理委員会の審査を受け承認された後に、関連の研究倫理指針に従って実施されるものです。

研究期間：2024年3月21日～2028年9月1日

## 〔研究課題〕

胃全摘術後における周術期の栄養サポートチーム(NST)介入の意義

## 〔研究目的〕

胃切除後の栄養状態低下に伴う体重減少は深刻な問題です。特に胃全摘術後には15～20%の体重減少を認めるとされており、患者様のQOLの著しい低下を招きます。そのため、周術期栄養管理の重要性が注目されており、患者様予後向上のために非常に重要であると考えられます。当院では2014年11月からNSTの積極的な介入を開始していますが、介入開始後の具体的な成績が不明であります。当院でのデータを解析し、胃全摘における周術期のNST介入の有用性を介入前後の治療成績を比較検討することで明らかにすることを目的としています。

## 〔研究意義〕

胃全摘における周術期のNST介入の有用性が明らかになれば、それをさらに伸ばし、有用性が否定されれば何が問題であるかを突き止め、改善し、胃癌術後患者様の更なる予後改善を目指します。

## 〔対象・研究方法〕

当院において2012年から2019年の間に胃癌に対して胃全摘・Roux-en-Y再建術を施行された120例をNST介入前の64例とNST介入後の56例の2群に分け、患者様背景、術後合併症発症率、術後在院日数、周術期体重減少率、術後生存日数などを集積し、NST介入の有用性などの観点から解析検討を行います。

## 〔研究機関名〕

帝京大学医学部外科学講座

## 〔個人情報の取り扱い〕

研究に利用する情報は、患者様のデータ収集時に独自の記号を記し、個人情報を削除して管理します。また研究終了後に電子化したデータセット等を倫理委員会事務局に提出し、帝京大学臨床研究センター(TARC)で10年間保管後廃棄します。得られた研究結果は、学会発表や学術論文として公表される予定です。公表に際しては、個人が特定できるような情報が開示されることはありません。

対象となる患者様で、ご自身の検査結果などの研究への使用をご承諾いただけない場合や、研究についてより詳しい内容をお知りになりたい場合は、下記の問い合わせ先までご連絡下さい。

ご協力よろしくお願い申し上げます。

## 問 い 合 わ せ 先

研究責任者： 深川 剛生      主任教授  
研究分担者： 熊田 宜真      臨床助手  
所属： 帝京大学医学部外科学講座  
住所： 〒173-8606 東京都板橋区加賀 2-11-1 TEL:03-3964-1211(代表)